

3. バンコク駐在員事務所レポート

～ タイ・プラス・ワンについて ～

1. はじめに

日系企業の進出先といえば中国、アメリカ、そしてタイ。2014年11月にJETROが行った調査では日系企業のタイ進出数は4,567社、その内の大よそ半分にあたる2,147社が製造業でした。充実したサプライチェーン、整ったインフラ、親日的な国民性といった多くの魅力が日系企業のタイ進出をサポートしてきました。

ところが経済の成長に伴って人件費の上昇や人手不足といった新たな課題に多くの日系企業が直面するようになりました。もちろん経済の成長の為には国民所得の向上は欠かせません。国民所得の向上とは企業サイドから見れば人件費の上昇であり、経済成長と人件費の上昇は切っても切れない関係にあります。経済成長を止めることは誰にもできず、経済が成長すれば進出している日系企業にとっても国内マーケットが拡大するといったメリットがあります。しかし製造業は少しでも安く製造することが求められ、その中で生まれてきたのがタイ・プラス・ワンの流れです。

2. CLMV について

タイ・プラス・ワンにおいて、コストが合う部分についてはタイでの生産を続けることに問題がないので、工場を丸々第三国に移転する必要はなく、人件費負担の重い業種、工程のみを移管すればよいということになります。

そこで移管先として有力なのはCLMVと呼ばれる4国です。それぞれの頭文字を取ったものでカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの4国を指します。タイを含めて陸のアセアンとも呼ばれます。このエリアでは東西経済回路、南部経済回路と呼ばれる国境を越えた道路網の整備が行われています。



※外務省 HP より

<タイを中心とした陸のアセアン>

特にタイと国境を接し、発展が遅れているカンボジア・ラオス・ミャンマーが、タイではコストの合わなくなりつつある人手のかかる作業（労働集約的な産業）の受け皿として有力視されています。タイの既存工場をメイン工場とし、カンボジア・ラオス・ミャンマーに補助工場を作り、労働集約的な工程を移管するという動きです。大企業ではトヨタ紡織やニコンがラオス、日本電産がカンボジアに工場を設立しております。ミャンマーも民主化が進み、バンコクから道路整備が完了すれば7時間で移動可能なダウエイ経済特区の開発が進んでいます。

因みにベトナムは前述の3国と違いタイとは国境を接しておらず、また他の3国に比べて発展も進んでいることから、タイの補助工場ではなく、独立した生産拠点として海外からの投資を既に集めています。

●CLMV の基礎データ

	カンボジア	ラオス	ミャンマー	ベトナム
人口(万人)	1,470	649	5,141	9,340
面積(万km ²)	18	24	68	33
GDP(百万USD)	18,050	12,369	62,600	193,566
一人当たりGDP(USD)	1,158.7	1,818.4	1,161.5	2,111.1
GDP成長率(%)	7.0	7.4	7.3	6.7

(※外務省・世界銀行のHP参照し作成/GDPは名目)

●タイ・日本の基礎データ

	タイ	日本
人口(万人)	6,593	12,686
面積(万km ²)	51	37
GDP(百万USD)	395,168	4,123,257
一人当たりGDP(USD)	5,814.8	32,477.2
GDP成長率(%)	2.8	0.5

(※外務省・総務省統計局・世界銀行のHP参照し作成/GDPは名目)

3. 最後に

四方を海に囲まれている日本に住んでいると外国とは非常に遠い場所であり、隣国ですら飛行機に乗り、海を越えなければいくことはできません。しかし世界中のほとんどの国は陸地で国境を接しており、バスや徒歩で国境を越えることは珍しくありません。そのような環境であれば人々は日常生活の中で簡単に国境を越えて活動いたします。ラオスに住

む人はタイ側の隣町まで日用品を買いに行きます。そしてタイ・プラス・ワンの中で企業の生産チェーンも国境を越えるようになってきました。

国際化、ボーダレスと言われてから多くの時間が経ちました。各国で製造した製品・部品を日本に集め、日本でアSEMBリし完成品を製造するといった国際分業の形は出来上がっています。そしてタイ・プラス・ワンではさらに進んだ国際分業の形として、製品・部品の生産工程の一工程だけを他国で行います。もちろん関税や物流面などクリアしないといけない問題はたくさんありますが、タイ・プラス・ワンの動きは国際分業のあり方として非常におもしろいものではないでしょうか。

京都銀行バンコク駐在員事務所では、本件含めた様々なお質問やご要望に対し、出来る限りお答えできるよう現地で情報収集を行っていますので、お気軽にご相談ください。

(バンコク駐在員事務所 馬場 康平)